

北方領土返還に本気度を

幹侯 21 期 高橋 亨

昨年度の北方領土ビザなし訪問に全国自衛隊父兄会の推薦で参加し、早いもので1年が過ぎた。この1年間で北方領土を巡る情勢は大きく変化した。私が参加した当時は、日ロ首脳会談で領土問題が取り上げられ、両首脳の間信頼関係の深化も相俟って問題解決への進展が大いに期待されていた。また、久しぶりに北方担当大臣が参加されたことから国民の関心も高まっていた。しかしながら、今年に入りウクライナ危機が生起し、ロシアによりクリミアが併合され、欧米に歩調を合わせた我が国のロシア制裁にロシアが反発し日ロ関係が急速に悪化する事態となった。返還に関し何らかの筋道が期待されていたプーチン大統領の今秋の来日も先のAPEC時の日ロ首脳会談で来年に先送りされた。とは言え、不法占拠は70年にも及び元島民の高齢化が進むなか、北方領土問題は早期に解決すべき重要な外交課題であることを忘れてはならない。私がビザなし訪問で目にした北方領土は、正にロシア化が進み、もはや日本の面影すら見つけることができなかった。

一方北方領土を巡る新たな動きとして、中国の北方進出がある。近年の中国の外洋進出についてはすでに広く報道され世界的な脅威となっているが、北極海や北極海航路に関しても中国の関心は強く、すでに砕氷艦を当該海域に派遣し海洋調査を行い、最近では軍艦も派遣していると言われている。これも中国の海洋戦略の一環であり、新たな資源の確保やシーパワーの獲得を睨んだものと考えられる。ロシアはこれについて極めて深刻に捉え各種の対応策を講じているようである。近年の日ロ軍事交流の促進をこのような文脈で捉えることができよう。このような新たな情勢を踏まえると北方領土返還交渉は、これまで強調されてきた北方領土の開発や経済協力等に加え、軍事・安全保障面からの交渉も複雑に絡み合うことが考えられる。北極海・北極海航路の重要性が高まるにしたがって、これらに接続し、また当該海域に向かうチョークポイントに位置する北方領土及び千島列島の地政学的価値はますます高まると言える。このことからロシアとの返還交渉は更に厳しくなることが予測されるが、対中戦略における日ロの安全保障上の連携という観点からは、逆に返還交渉にある種の進展が生まれてくるのではないだろうか。政府には新たな展開を見据え、本気度を出して対応してもらいたい。

かつて我が国の防衛を担った者としては、北方領土問題に関し、北方4島とこれに接続する海・航路を含めた安全保障の視点から考えてみることも必要であると思う。勿論、一国民として返還要求署名運動に参加し、定期的に参加されている返還要求大会等国民運動にも積極的に参加するなど国民運動の推進に寄与することも大切な事だと考える。私はビザなし訪問経験者として、今後とも街頭に立ち返還要求署名集めに尽力するとともに北方領土の現状を広く知らせる役割を微力ながら果たしていく所存である。